

松本道弘氏 英語講演会

11月18日の3限目に、英語教育や同時通訳の世界で名高い松本道弘氏に、「秀才は天才に勝つことができるのか」という演題で、1年生全員を対象に講演していただきました。動画配信サイトで人気上昇中の「ピコ太郎」によるPPAP（ペン・パイナップル・アップル・ペン）を、トランプ氏の孫娘が踊り話題になったという時事を元に、天才とはどういうものか、秀才とはどういうものかを英語でお話しいただきました。生徒は理解しようと懸命に傾聴していました。

お話の後は、本校SETが「才能より努力が大事だ」という英語のスピーチを行い、それを松本氏に同時通訳で日本語にさせていただきました。同時通訳の現場を初めて目にした生徒がほとんどで、歓声や笑いが度々沸き起こっておりました。続いて本校の教員が「社会の変遷を考えると、秀才でなく天才が人材として求められるようになる」という日本語のスピーチを行い、こちらを英語に同時通訳させていただきました。

同時通訳を終えると、話題は再びトランプ氏に戻り、トランプ大統領の誕生は日本にとって良いのか悪いのかをテーマに、白熱教室さながらの参加型の議論が展開されました。生徒の大多数がトランプ氏は日本にとって好ましくない、という反対の立場を支持していましたが、賛成の立場の生徒が登壇して、自分の使える範囲の英語で意見の表明とその理由を説明しました。反対の立場の生徒や教員も登壇し、終始和やかなムードの中で、議論がなされました。

その後、勉強をするようになったきっかけなど、松本氏の在学時のお話をさせていただきました。そして、失敗するからこそやる気になれるという、学ぶモチベーションのお話、一度「どん底」を経験して強くなれ、という励ましのお話をいただきました。大きくうなずく生徒の姿もあり、生徒はそれぞれにメッセージを受け取っているようでした。

その後、アメリカの経済のあり方と禅の思想を対比され、日本文化から学べるものについてお話しいただきました。また、二宮尊徳の人生と思想をもとに、利他精神のあり方、どん底から這い上がった人間の強さについてお話しいただき、北野生には失敗することを恐れず、他人の敷いたレールに従うことに終始せず、天才と秀才の「二刀流」で、自分の道を切り開いて欲しいと締めくくっていただきました。文理選択真っ只中の生徒にとって勉強や高校生活、将来のあり方を考えるよい機会になったようです。

